

# 【ねがいはしては】

平成30年6月25日

KYOWA SCHOOL

第332号

「おならが書ける」

『ママとパパにいわれなくともしっかりとじぶんからもっともときよりかあしたはできるようにするからもうおねがい ゆるして ゆるしてください おねがいますほんとうにおなじことはしません ゆるしてきのうぜんぜんできてなかったこと これまでまいにちやってきたことをなおす これまでどんだけあほみたいにあそんだかあそぶってあほみたいだから やめるから もうぜったいぜったいやらないからね ぜったいやくそくします』

これは3月14日に起こった、目黒女児虐待事件の5歳児が書き残したノートです。

恐怖の中で書き綴った命がけのことばです。怖かったことでしょう。

そのような境遇の中に生まれてきた命、まさか5歳で天国へ旅立つとは思っていなかったことでしょう。

あらためて『家族』という2文字を考えてしまいます。

ダメでいいから、ビリでいいから、0点でいいから、成績が下がっていいから、家族団らん、ひとつテーブルを囲んで笑顔で食事をとる……。当たり前とっていい風景を感じぬまま旅立った……。

この子のノートから感じられるもの……『脅迫』

「〇〇できなかつたら〇〇だぞ……」親からの容赦ない脅迫……。食事という体罰によって命が奪われた虐待の中にある『脅迫』。

実はこれに近いことが日常に多くあるように思えてなりません。

ある中学生の言です。「〇〇までに提出できなかつたら、内申に響くぞって言われた。」これは宿題の提出期限を越えた場合のことを言っています。「今度のテストで成績が悪かつたら、点数分だけ校庭を走らせるぞ」「小テストで〇〇点以下の者は放課後残すぞ」などなど……。これを聞いた生徒はやはり怖かつたそうです。そしてそれが、その情景が、後々まで色濃く残ってしまいます。『トラウマ』です。

なかなか取れません。ふっとした瞬間にこころの中を『ヒヤッ』と駆け抜けていきます。心は固まったまま、他を受け入れることの出来る状態ではありません。もしそれが授業中であつたなら、その時の先生からのことばは全く入ってきません。その『ヒヤッ』の源が目の前の先生であつたなら……。やがてやってくるテストでの結果は……。

子どもたちは真剣に生きようとしています。しかし、その気持ちから逃れようとして……。悪循環ばかり……。

家庭でも『脅迫』に似たようなことが結構多く見られるのかもしれませんが。その過半数は学校での成績にまつわるものと言っても過言ではないはず。「あなた、今度のテストで悪かつたら携帯取り上げるわよ……。」逆もあります。「今度のテストで成績が上がつたら、〇〇買ってあげるからね。頑張つてね！」

親の心理からすれば、励ましているつもりなのでしょうが、子からすると、じゃー下がつたらどうなるのだろうと想像してしまいます。

さて、成績とは何なのでしょう。私はいらないものだと感じてしまいます。ある副産物であつて、一握りの方たちが興味を持って行っていることなのでしょう。かなりの楽観的な受け取り方が良いのだと思っています。

子どもたちと触れ合うようになって40年が過ぎ、4けたにもものぼる子どもたちの親子関係を極々客観的に眺めると、なぜか成績に非常に熱心な親御さんの家庭にいるお子さんは成績が低いのです。(成績のことは触れたくありませんが)

そして共通して言えることが、親子の信頼関係が極めて殺伐としていることです。人と人の中になくてはならないもの……『信頼』が軽薄です。

その逆、「私のお母さん、何も言わない。どうせ私の子だから期待はしていないわよで片付けられてしまう。」そのような家庭環境下の子は、なぜか実にまじめに向かっているのです。そして性格も穏やかです。

あるお子さんの詩があります。灰谷健次郎さんの著作『せんせいけらいになれ』より、

『おなら一家』2年 おおひら しずお

おとうちゃんは まい日 ごはんを食べる前に ぶちんとおならをおとす

「おとうちゃん おならを こかんどき」と おかあさんがいう

かおをあらいにいったとき おとうちゃんはまた ぷすーと おならをこいた

「そないに おならをこぐなよ」と こんどはぼくがいう

あさごはんのとき とうちゃんは また おならをこいた すると おかあちゃんもつられて

ぷーんとおならをこいた こんどこそは みんなのみんながわらった

結愛(ゆあ)ちゃん、こんな家庭に生まれたかつたね。安らかに……。合掌。